

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2021年 4月 22日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 太田 吉泰

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	太田 吉泰	経営	H0301059
	②	笹野 武則	経営	H0901035
	③	植村 義秀	福祉	H1801080
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	放課後等デイサービス			<input checked="" type="checkbox"/> 食事を対象にする
評価対象事業所名称	友愛こどもクラブ とことこ			指定番号 1352800096
事業所連絡先	〒	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木2-107		
	TEL	0428-74-5453		
事業所代表者氏名	施設長 渡部 光行			
契約日	2020年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2020年 8月 5日			
利用者調査結果報告日	2020年 11月 16日			
自己評価の調査票配付日	2020年 7月 31日			
自己評価結果報告日	2020年 11月 16日			
訪問調査日	2020年 11月 17日			
評価合議日	2020年 12月 23日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査はアンケート方式で実施しました。事業評価については、職員会議で評価手法等について説明して実施しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2021年 3月 29日

事業者代表者氏名 施設長 渡部 光行

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子どもたちの最善の利益を考える（権利擁護） 2)子どもの健やかな成長を支える（信頼感・安心感・満足感） 3)日々の観察から肯定的な子ども像を捉える（正しい特性理解・潜在能力の助長） 4)保護者を共同の援助者とする（学び合う意識） 5)できる限り長く家庭生活が送れることを考える（生まれた地域で生きるを支える）</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> * 誠実であること。 * 主体性を持って考え、判断し、行動し、学ぼうという姿勢の人材。 * 組織の一員として最低限の報・連・相ができ、周囲の意見を傾聴、保護者との協同による児童の育み、独善的な言動に走らず謙虚に組織の中で能力を表出できる人材。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>国民の税金により仕事をしている以上社会に向けて自分の仕事の説明責任が伴うこと、生命を預かっていることの重さを常に意識してほしい。そして正しい倫理観の下、支援を必要としている人とその家族に寄り添い支えていく気概を持ち続けてほしい。</p>

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル①	児童の権利・最善の利益の視点から、権利擁護に対する職員の意識の徹底を図っている	
内容①	<p>〈児童の権利擁護、児童の最善の利益〉について朝会や職員会議等で常に注意喚起し、権利擁護に対する職員の意識の徹底を図り、一人ひとりの児童の気持ちに寄り添った支援が行えるよう取り組んでいる。法人として、虐待防止研修に早くから取り組み、職員全員に研修を行っている。コロナ下、今年度の外部研修への派遣は実施できないため、管理職者等による内部研修に重点を置いて行っている。マニュアルに基づいて虐待防止体制を整備し、年2回「自己点検シート」による職員自己チェックを実施・検証し、権利擁護意識や支援の振り返りを行っている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-5	子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル②	様々な活動プログラムを立て〈楽しみながら学ぶ療育〉ができるよう取り組んでいる	
内容②	<p>ガイドラインの基本活動4項目「自立支援・創作活動・地域交流・余暇」をベースに、〈児童が楽しみながら学ぶ療育〉に取り組んでいる。活動は、川遊びや自転車遊び、花や野菜栽培、おやつ作りや収穫野菜の調理、季節に合わせたイベントや工作など、自然環境や広い園庭など事業所の立地条件を活かしたプログラムを立て、楽しく快適な活動になるよう計画して行っている。これらを個別支援計画や児童の障害、発達段階等に応じて支援し、収穫した野菜を料理することにより、野菜が苦手な児童が食べられるようになったりもしたとのことである。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	家族との交流・連携を図り支援を行っている
タイトル③	障害児や家族の地域生活支援の観点から、家族の事情等にあわせた利用受入を行っている	
内容③	<p>当法人では放課後等デイサービスが制度化される以前より、〈障害児や家族の地域生活を支援する〉観点から児童入所施設の家庭支援部門として日中一時支援事業を行ってきた。制度化後もこの基本方針の下で、家庭の事情等をふまえて短期入所事業と併用したり、送迎や夜間の支援などのサービスを組み合わせた利用方法、緊急度の高い児童や支援困難な児童、重度の児童の受入れを行っている。保護者と風通しの良い関係を作り、家庭からの要望や相談等にも対応し、保護者の悩みや不安に寄り添いながら児童や家族の地域生活を支えていけるよう取り組んでいる。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	障害児やその家族の地域生活を支援することを基本方針にして、地域の障害児や家族の様々なニーズに応えられるよう取り組んでいる
	内容	当事業所の日中支援は、〈障害児や家族の地域生活を支える〉ことを目的として児童入所施設に家庭支援部署を設け、H18年から短期入所事業や日中一時支援事業を開始したことから始まっている。H24年より放課後等デイサービス事業として運営しているが、「地域で生活する障害児やその家族の日常生活が成り立つよう支援する」という基本方針の下で、支援困難な児童や重度の児童もできるだけ受け入れる、短期入所等他の事業との併用、保護者の都合に合わせた送迎等、地域で生活する障害児や家族の様々なニーズに応えられるよう取り組んでいる。
2	タイトル	職員配置基準を上回る職員体制にし、個別対応のできる支援体制や、保護者のニーズに沿った支援が行えるよう取り組んでいる
	内容	放課後等デイサービスの人員配置基準は定員10人まで2人以上であるが、当事業所は10人の定員に対して常勤換算で5人配置(基準の2.5倍)し、直接支援員1名に対し児童2人の配置割合にしている。重度児や支援困難な児童の受け入れ、個別対応グループによる支援体制、多種の活動プログラム、送迎等保護者の要望等に応えられるよう、職員を増配置して本事業に取り組んでいる。制度的な制約から、経営上報酬単価や区分の関係で受け入れ日数を制限せざるをえないこともあり、利用希望に応じきれない問題があるとのことである。
3	タイトル	児童の障害特性や発達段階に配慮しながら、児童の特性や状況に合わせて療育の視点に立った個別的な支援に取り組んでいる
	内容	障害の重い児童や支援困難な児童を受け入れており、集団での活動が苦手な児童も多く、集団的活動の中でも特に個別対応に留意した支援を行っている。不安定な児童や不意な他害行為など児童の特性に配慮した支援体制、重度児童には職員が一緒に付いて行動する、大きな音や騒がしい環境が苦手な児童が利用する時は外遊びグループを作ったり静かな環境づくりを行う、毎日の生活で外歩きが拘りになっている児童には雨天時も雨具をつけて一緒に歩く等、一人ひとりの児童の障害特性や発達段階等に応じて、療育の視点に立った個別支援を行うよう取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ホームページの事業所情報に運営方針や事業所の特徴、活動内容等を加え、地域の障害児や家族により詳しい情報が提供できるよう望まれる
	内容	放課後等デイサービス「友愛こどもクラブ とことこ」の紹介は、HPの中で児童部内の事業のような形で掲載されているが、掲載内容を検討し、当事業所の事業内容をより詳しく紹介した内容にする方がよいと思われる。事業所として、運営の基本方針や考え方、事業所の特徴、活動内容、利用方法等について、利用を考えた人や事業所を知らない人に伝えたいことは多いのではないだろうか。コロナ下でもあり、情報発信の方法や内容は慎重に検討しなくてはならない面もあると思われるが、利用率の向上を図るためにも紹介内容を検討されるよう望まれる。
2	タイトル	事業運営の体制を経験年数の長いベテラン職員と若年職員も含めた職員構成にしなが、次世代人材の育成を図っていくことが期待される
	内容	在職年数の長いベテラン常勤職員や平均年齢の高い非常勤職員が多い職員構成となっており、事業所の今後の職員体制をふまえ、世代交代に取り組む必要があるとしている。年齢や発達段階、障害状況等が異なる児童が入れ替わりで利用する中での支援や、様々な家庭状況の家族・保護者に対応するためにはベテラン職員の技能や経験や高年齢職員が適している面がある一方、支援体制上若年職員もいる職員構成が望ましい面もある。法人全体の課題として次世代人材の育成に取り組んでいるとのことであり、当事業所における次世代人材の育成にも期待される。
3	タイトル	ガイドラインによる自己評価結果をもとに改善が必要な点や課題など具体的に検討する機会を設けよりよい事業運営が行えるよう望まれる
	内容	当事業所は、放課後等デイサービスの自己評価の義務化前から自己評価を実施し、法人ホームページに結果を掲載し、利用者や保護者を含め対外的に公表している。今年度も既に自己評価を実施しホームページにも掲載されている。前年度の評価結果と比較すると改善されている項目も多く、改善が図られていることが伺われるが、事業所として、自己評価結果をより掘り下げて検討する会議を行いたいとしている。自己評価結果をもとに、改善が必要な点や課題などを具体的に検討する機会を設け、事業運営、サービスの改善により一層取り組むよう期待される。